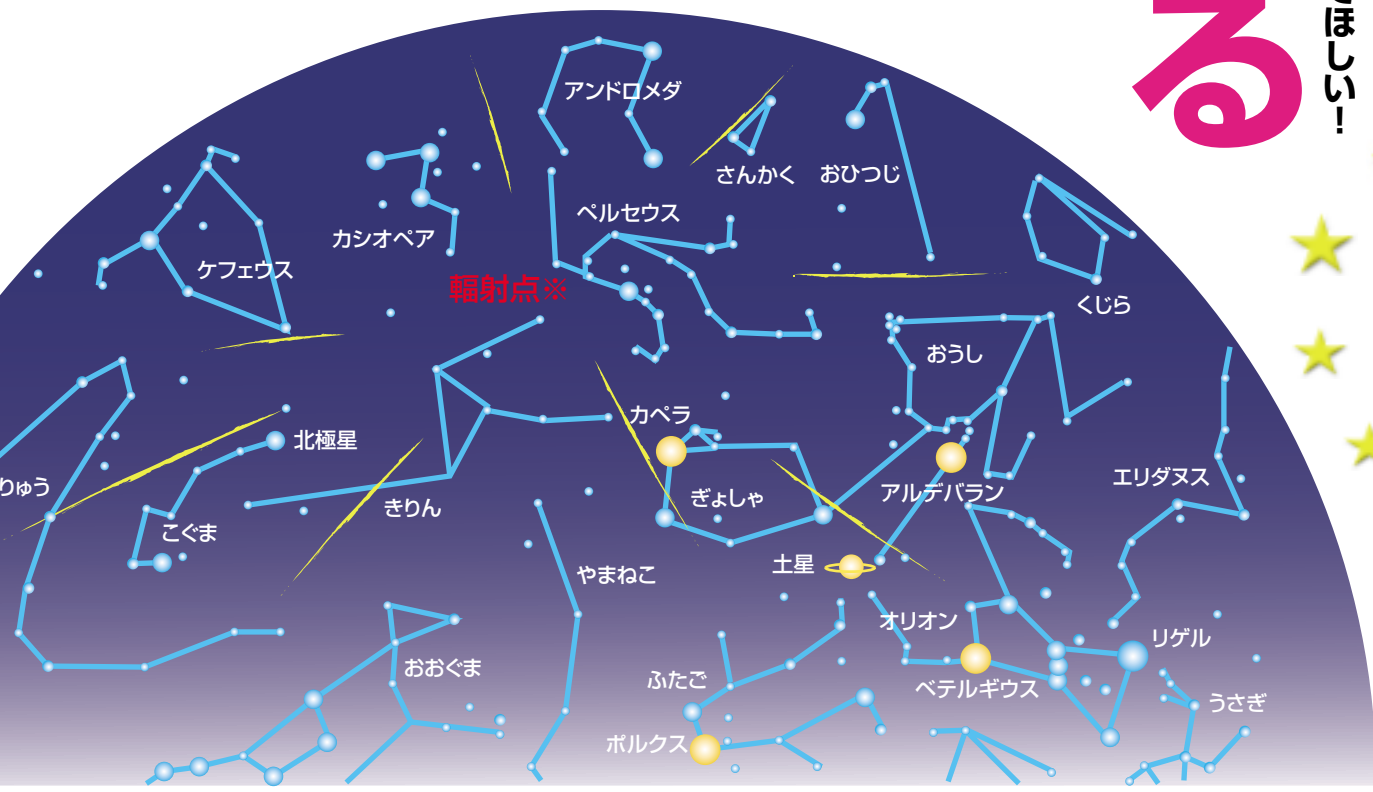


夏の定番。ペルセウス座流星群

今年もお盆の頃の星空の一大イベント「ペルセウス座流星群」がやってきます。この流星群は毎年多くの流星を見ることができるので、今回も期待されています。ペルセウス座流星群の活動がピークを迎えるのは、8月12日の夜半から13日の明け方にかけてと予想されています。しかも、月も沈んでいますので、絶好の条件で見ることができます。ペルセウス座流星群には、明るい流星もたくさん見られるので、多いときには1時間に数十個の流星が、ペルセウス座にある輻射点のあたりを中心として、四方八方に流れる様子を見ることが期待できます。

夏の夜の一日、天文ファンでなくても、一度夜空を眺めてください。



8月13日午前3時頃

観察時期 8/12~13にかけての夜

向日市天文館では、毎月第2土曜日に天体観望会を開催しています。8月は10日を予定しています。当日は、プラネタリウムによる今日の星空の解説の後、実際に望遠鏡を使って夏の星座と星雲星団を観察します。もちろん、ペルセウス座流星群の説明も行われますので、事前の学習にはベスト。観望会は申込制ですので、天文館にある「観望会申込書」または往復はがきに住所・参加者全員の氏名・年齢・電話番号・観望希望日を書いて、〒617-0005向日市向日町南山82-1向日市天文館へ、観望日の10日前までに送ってください。

お問い合わせ 向日市天文館 ☎935-3800

●観察場所

向日市内でも明るい流星なら見ることはできます。夏休みのこの時期には、海や山に出かけている人も多いと思います。まず、空が十分に開けている場所を探しましょう。地面に寝転がって、広い範囲の空が気持ちよく見渡せればOKです。街の明かりの影響の少なく、星がたくさん見える場所を選ぶことが大事です。

●準備しておくといもの

懐中電灯、地面に寝転がるシートやマットなどを準備してください。また、夏といっても明け方は冷え込みますので、長袖の服も用意しておきましょう。

●観察の仕方

寝転ぶなど、楽な姿勢で夜空を眺めてください。ペルセウス座流星群はペルセウス座の方向を中心として、そこから飛び出してくるような経路で流星が見えるので、流星の経路を逆にたどってペルセウス座があれば、ペルセウス座流星群の流星といえます。

流星の観察は、ほぼ真上の空を見ていれば問題はありませぬ。ペルセウス座は北東の方角に見えていますが、空全体を眺めるのがよいでしょう。

※1流星 太陽系内の惑星空間に漂う直径1ミリにも満たないチリのようなものが、地球の引力の影響で、秒速数十キロという猛スピードで大気(空気)の層に飛び込み、空気との摩擦で燃え上がって発光します。この時、ほとんどの流星の元となる物質は、激しい熱で瞬間的に蒸発してなくなってしまうため、流星はほんの一瞬、星が流れたように見えるのです。

※2輻射点 流星群は見え方にも特徴があり、流星の見えた方向を調べてみると、ある一点の場所から飛び出してくるような規則性があります。この点のことを「輻射点(放射点)」と呼びます。

たくさんの流星を期待しています。

天文館で星の勉強をしてから、実際の観察に出かけると楽しいですね。



勝山中1年(上植野町) 下間 彩加さん 聡美さん

去年の子ども天文教室で望遠鏡を作ってから、二人とも星座に興味を持ちました。天文館の天体観望会へもそれ以後数回参加し、季節ごとの星々を眺めています。とりわけ、観望会の前にプラネタリウムで行われる今夜の星空案内が気に入っています。初心者にも分かりやすく説明されるので、流星群のことも実際の星を見る前に、聞きたく思っています。